

1. はじめに

施設使用料等の經常収入だけでは、管理運営費を支へることができないこと、過去の建設投資の公債償還が大変なこと、および新たな施設整備の資金調達に困難であること等、港湾管理者の財政をめぐり諸問題が、近年以降の経済変動によって、従来にもまして重要視されることとなった。本論は、①港湾の管理運営のあり方の検討、②港湾計画の財政的観点からの実行可能性を検討するための手法の開発、および③港湾整備を核とする地域開発の投資効果の検討を行うための一歩として、港湾管理者財政の現状と近年の動向を解析したものである。

2. 港湾管理者財政の仕組み

港湾管理者の財政状態の解析は、各年度ごとの資金運用表（支出と収入）、損益計算書、および港湾活動と財政との関係を表わす指標の3つから行うことができる。

2.1 資金運用表（支出と収入）

港湾管理者の財政の大部分は、金銭の収支による資金の流れを示す官庁会計方式によって経理されている。支出は、港湾の施設使用料、役務利用料等の港湾収入、国庫支本金、県（市）支本金、受益者負担金等、および公債（一般公共事業債と、準公営企業債である港湾整備事業債を含む。）から成る。一方支出は、管理費（経管関係と建設関係）、施設整備費（基本施設と運営施設等）および公債償還費から構成される。

2.2 損益計算書

損益計算書は、管理者財政を企業会計方式の観点から、ある期間に実現した収益と、これに要したと見られる費用を比較対照し、その期間の経営成績を明らかにするものである。収益（經常収入）としては、施設使用料、役務利用料を、費用（經常支出）としては、管理費、公債利息および港湾施設の減価償却費に相当する。なお、この場合の減価償却費は施設整備に要した費用の全額ではなく、管理者負担分を対象としたものである。

2.3 港湾活動と財政との関係を表わす指標

經常収入／減価償却費（倍）；収益性に関する港湾施設

の利用効率

減価償却費（倍）／港湾取扱貨物量；機能性に関する港湾施設の利用率

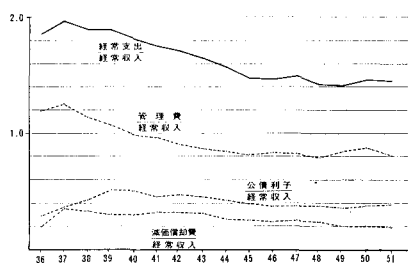
経管関係管理費／公共取扱貨物量、經常収入／公共取扱貨物量；貨物1トンに要する費用と収入を示す。

（なお、減価償却費（倍）は、施設整備費の全額を対象とした償却費であることを示す。）

3. 主要8港における管理者財政の長期的推移

東京、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸、下関、北九州の各港における管理者財政を単純合計したものの昭和36年度以降の長期的推移の特徴は以下のとおりである。

- ① 支出の合計に占める管理費の割合は、ほぼ20%前後で一定していたが近年で増加する傾向にある。
- ② 公債償還費の占める割合は、60年代前半まで段階的に大きくなってきたが、後半は若干低くなりほぼ一定であった。しかし、60年度には再び上昇し、約24%と最も高い割合となっている。
- ③ 60年代後半から一貫して基本施設整備費の占める割合の低下が著しい。
- ④ 収入に占める港湾収入の割合は、徐々に高くなっており、50年度には約31%とかなりの比重を占める資金源となっている。
- ⑤ 一般財源と公債の占める割合は、全く対照的な変化を示しており、経済の動向を反映している。
- ⑥ 損益計算書の変化は、下図のとおりである。



主要8港における経管収支の推移

4. 主要8港の管理者財政の比較

上記8港における昭和40年度における管理者財政の比較の結果を以下の表に示す。

主要8港の資金運用（歳入）比較表（昭和50年度）

港名	歳入計 A (百万円)	管理費 A	基本施設整備費 A	運営施設等整備費 A	公債償還費 A
東京	8,182	44.2%	15.6%	12.4%	26.0%
川崎	7,524	11.8	77.2	2.7	7.4
横浜	14,065	23.1	17.7	31.5	23.5
名古屋	13,925	42.2	24.9	12.4	19.9
大阪	15,445	28.6	23.8	9.5	25.3
神戸	24,395	16.4	33.1	23.0	16.8
下関	1,108	26.6	24.1	4.2	45.3
北九州	4,915	25.9	34.3	6.4	25.5
平均	(89,681)	26.2	30.2	15.0	20.6

主要8港の資金運用（歳入）比較表（昭和50年度）

港名	歳入計 A (百万円)	港湾収入 A	一般財源 A	公債 A	国庫負担金 A
東京	8,182	30.4%	46.3%	10.8%	4.5%
川崎	7,524	11.1	13.7	45.0	30.2
横浜	14,065	39.1	18.1	37.0	5.5
名古屋	13,925	42.2	31.9	16.7	8.7
大阪	15,445	34.6	22.0	15.1	18.1
神戸	24,395	30.0	17.2	30.5	15.0
下関	1,108	22.6	61.9	6.5	4.5
北九州	4,915	27.6	31.1	33.0	6.4
平均	(89,681)	31.4	22.9	26.6	12.2

主要8港の経常収支比較表（昭和50年度）

港名	経常支出 A (百万円)	経常収入 B (百万円)	経常収支 比 A/B	管理費 B	公債利子 B	減価償却費 B
東京	5,797	2,339	2.48	1.55	0.48	0.46
川崎	1,419	776	1.83	1.15	0.53	0.14
横浜	6,074	5,277	1.15	0.62	0.42	0.12
名古屋	8,192	5,573	1.47	1.05	0.23	0.19
大阪	7,664	5,165	1.48	0.85	0.43	0.20
神戸	7,504	6,633	1.13	0.60	0.37	0.15
下関	495	219	2.26	1.34	0.63	0.28
北九州	2,308	1,290	1.79	0.99	0.47	0.33
平均	(39,404)	(26,720)	1.47	0.88	0.39	0.21

主要8港の港湾活動と財政の関係比較表（昭和50年度）

港名	① (円/円)	② (円/トン)	③ (円/トン)	④ (円/トン)	⑤ (円/トン)	① 経常収入 減価償却費(全)	② 減価償却費(全) 港湾取扱貨物量	③ 経営関係管理費 公共取扱貨物量	④ 経常収入 公共取扱貨物量	⑤ ④-③
東京	1.65	28.4	61.3	76.0	14.7	①	②	③	④	⑤
川崎	4.59	2.0	86.4	93.5	7.1	②	③	④	⑤	
横浜	3.91	12.0	96.3	175.0	78.7	③	④	⑤		
名古屋	3.84	16.8	165.1	210.3	45.2	④	⑤			
大阪	3.39	20.7	46.7	79.7	33.0					
神戸	3.45	14.3	50.2	90.3	40.1					
下関	1.94	7.3	103.8	91.3	-12.5					
北九州	1.90	8.0	32.4	37.1	4.7					

資金運用の構成によって、8港の管理者財政は状態は、3つのグループに分類することからできる。

- ① オーのグループは、支出に占める施設整備費の割合が高い川崎港である。財政規模が拡大しつつあり、支出に占める公債、国庫支出金の割合が高い。また、公債償還費の増加が著しい。
- ② オエのグループは、経済的経営（管理費と公債償還費）に施設整備費への支出がほぼ等しい。

横浜港と神戸港である。支出に占める施設収入の割合が高い。このような港では、財政面において、管理運営と施設整備がほぼ同じ比重で重要視が高い。

- ③ オエのグループは、施設整備費よりも経済的経営の支出が相対的に大きく、財政面において施設整備よりも管理運営の重要視が高くなっている東京、名古屋、大阪、下関、北九州の各港である。

5. 港の活動規模による管理者財政の特徴

管理者財政の特徴を規定する要因を探るため、特定重要港と重要港を合わせた8港について、①取扱貨物量の大きさ、②公共取扱貨物量の大きさ、③取扱貨物量に占める公共取扱貨物量の割合、④流通、生産の機能別に3つのグループに分けて、各グループ間の財政状態を比較した。その結果、公共取扱貨物の大きさにより分類した各グループの財政所収差違が最も顕著であった。

- ① 財政規模は、公共取扱貨物量の大きさにほぼ比例している。
- ② 公共取扱貨物量の多い港ほど管理費と公債償還費の占める割合が大きくなり、基本施設整備費の占める割合が小さい。
- ③ 公共取扱貨物量が多い港ほど港収入の占める割合が大きくなり、国庫支出金の占める割合が小さい。
- ④ 公共取扱貨物量の少ない港ほど、経常収入に対する経常支出の割合（経常収支比率）が高く、企業経営的にみると、港の管理運営が成り立たないことを示している。
- ⑤ 港活動と財政との関係は、下表に示すように、公共取扱貨物量の多い港ほど収支の差が縮小されている。

参考文献：港運技術研究所報告 第18巻 第1号
「4. 港湾計画における財政に関する研究（オエ報）」

公共取扱貨物量による港湾活動と財政の関連の相違（昭和50年度）

公共取扱貨物量 (千トン)	① (円/円)	② (円/トン)	③ (円/トン)	④ (円/トン)	⑤ (円/トン)	① 経常収入 減価償却費(全)	② 減価償却費(全) 港湾取扱貨物量	③ 経営関係管理費 公共取扱貨物量	④ 経常収入 公共取扱貨物量	⑤ ④-③
~10,000	2.91	12.9	45.9	69.4	23.5	①	②	③	④	⑤
10,000~4,000	0.93	9.6	43.3	44.4	1.2	②	③	④	⑤	
4,000~1,500	0.74	12.4	55.3	52.1	-3.2	③	④	⑤		
1,500~	0.35	9.8	41.8	31.7	-10.1	④	⑤			